みかい

安住院便り
（第29号）
平成24年8月1日発行
〒703−8236
岡山市中区国富3丁目1−29
住職　生駒琢一
TEL(086)272−2320　FAX(086)273−9327

住職

どのお寺にも、住職がいます。辞書によると、住職とは「住持職」の略で一寺院を管掌する僧侶のこと、とあります。現在は、宗教法人法により、代表役員として届け出ているのが、住職です。

本堂に安置されている御本尊を御守りするのが大切な役割ですが、それと同時に、檀信徒の方々の檀務を行っていることは、ご存知の通りです。

昔は、七堂伽藍といって、様々な堂宇が揃っているのが寺院でした。安住院のように仁王門から塔まで残っている寺院は、地方では珍しいかも知れませんが、それが古刹と云われる由縁なのです。

安住院は、天平勝宝年間（七四九）、報恩大師の創建とされる備前四十八ヶ寺の一つで、現住職で、数えて九十五代目となります。先般、九十三代・九十四代の先師忌法会を行いましたが、連綿とつながっている、安住院の住職の系譜があるのです。

今まで、九十五人の住職が約一二六〇年間、安住院を護ってきました。一人平均約十三年ですが、決して一人では何も出来ません。回りにいる多くの僧侶や檀信徒の協力があって、成り立つものです。長い歴史の間の栄枯盛衰は、寺院でも同じであり、明治以降でも、廃仏毀釈、世界大戦、農地改革と、寺院の運営を困窮させる出来事が続きました。そのたびに、檀信徒の皆様と力を合わせて難局を乗り越えてきました。

住職は、その安住院のタスキを掛けているに過ぎません。転ばないように、正しく次の方へ渡せるよう、心がけています。

正月初観音法会より始まり、様々な仏教儀式を修することは、当然のことではありますが、境内整備を含め、伽藍の維持も大事な任務です。瓶井の谷に佇む、由緒ある安住院を、現状のままで、次の世代に受け継いでいくことの重要性を、是非ご理解下さるよう願い致します。

そして、この安住院の歴史と、檀信徒の方々の思いを考えながら、次へ継承していくことが出来るよう努力いたします。

次回には、新しい世代の僧侶を紹介しますので、ご期待下さい。

安住院ホームページ　http://www.anjuin.com/

青葉まつり開催

本年六月十五日、毎年恒例の弘法大師降誕会（青葉まつり）が、真言宗岡山市内結衆を中心に、当安住院本堂にて開催されました。

弘法大師空海上人の御誕生を御祝いする法会で、市内結衆寺院の持ち回りで行われています。

本堂を青葉（樟（くすのき））で飾り、大師稚児尊像に甘茶にて潅仏するなか、法会を行い、ポスターの作画をお願いした、倉敷高蔵寺・天野高雄師の法話、余興として中国雑伎・くじ引きなどがあり、檀信徒の皆さんと一緒に、一日楽しく過ごしました。

先師忌法会

本年は、当院第九十三代智禅和尚の五十回忌、第九十四代敬明和尚の二十五回忌に当たります。結衆寺院をはじめ、法縁・総代の方々と共に、先師忌を勤めました。

（本堂内での法会）

灯籠流し

岡山市佛教会主催で、今年も例年通り、八月十六日六時半から、西川の緑道公園にて、灯籠流しを開催致します。

ご先祖様の供養のため、是非お詣りして、灯籠流しにご参加下さい。

淡路島霊場参拝①

本年四月二十六日、淡路島にある十三仏霊場と七福神霊場のお参りを始め、今回は北淡の七ヶ寺を訪れました。

淡路で有名な二つの霊場ですが、当院としては初めての団参となり、新たな気分でのお参りとなりました。

十七年前の大震災で大打撃を受けた場所ではありますが、檀信徒の協力により復興され、伽藍整備も進み、綺麗なお堂で御本尊を拝むことが出来ました。住職を初め関係者の多大な努力を思いながら、法話や御接待など、心温まる一日でした。

仏様の種類はたくさん有ります。日本人に特になじみ深い七福神や、日頃の「おかんき」で拝む十三仏の仏様など、少しは理解出来たのではと思います。

次の予定は、十月四日（木）淡路島の第二回目ですので、是非ご参加下さい。